I'mネット大賞応募内容の概要

◎「災害時の対応を目的とした交流サークル「お父さんの会」の設立と活動」

近年、災害時の住民の援助姿勢として「共助」の重要性が随所で強調されている。

住民同士の繋がりが希薄化している中で、「共助」の仕組みの構築を求めて、お父さん主体の有志によって「お父さんの会」という交流グループを設立した。家族全員参加型の諸行事を重ねることでマンション内のメンバーの交流促進を図っている。現在では、マンション以外の周辺地区のお父さんたちもメンバーに加え、地区の行事の準備、運営を担うことで交流・活動の場が広がっており、マンションを含めた地区全体の住民同士の交流促進に欠かせないものとなっている。

◎「カークラブによる駐車場運用」

住戸数115戸に対し、35台分の駐車場という圧倒的な駐車場不足への恒久的な方策として、先着順で固定せず後の入居者にも公平感を保つため、「カークラブ」という管理組合、自治会に続く第三の組織を設立。

「カークラブ」は、駐車場利用者で組織し、独立した会計を持ち、マンション近隣に外部駐車場を借り受け、内部駐車場代金と外部駐車場代金を合計した上で、会員に対して外部駐車場代金より安価に駐車場を提供している。駐車場の場所は毎年抽選会を行って決定、多少のクジ運はあるが概ね公平な仕組みで運用している。

◎「私達の集合住宅の自慢」

居住者の有志により「ほづみ会」という名称の活動隊を立ち上げて、主に環境美化活動を実施している。

・敷地内の季節ごとの花壇作りと、隣接する児童遊園の植栽作業。茨木市（農と緑の推進課）及び管理会社からの花、種から育てる花、メンバー内の名人による挿し木によるもの等、土壌作りから実施している。

・メンバー内の名人によるバラの育成管理は、校区内の小学校のバラの育成管理を応援している。

・早朝、前面道路の樹木周りや児童遊園の清掃管理作業を行い、敷地周辺も含めた美化に取り組んでいる。

「ほづみ会」以外の活動として、竣工当時から、居住する建築士や設備管理の経験者が理事会をバックアップする風土が育っており、日常及び長期に亘る修繕・改修について課題の解決策を提案している。

◎「駐輪設備によらず心の中の規制で駐輪マナーの向上」

駐輪場の駐輪マナーが守られず、エレベーターホールに近い便利な箇所に駐輪が集中し、1区画5台の予定台数以上が駐輪するために、通路まで自転車が出出して夜間の通行に危険を感じるような状態であった。

他所で採用されている駐輪設備を採用すると自転車一台あたり10,000円、棟全体では2,000,000円程度の設置費用と、以後損傷等に対して継続的に維持費用等が必要となる。

経済的な解決策として、駐輪場の各区画の駐輪スペース正面に「この区画は5台まで、◎◎側駐輪場のご利用を」と記した掲示を設置した。駐輪するたびに掲示文を見ることとなり「自分は何台目かな？5台までだな」と、各人の心に訴えることで、無理な割込み駐輪が減少し駐輪マナーが向上した。

(応募文の内容を要約しました。)